

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがおの広場（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年3月15日 ～ 令和7年3月22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	知育玩具や絵カードなどを用い、こどものニーズやコミュニケーション能力の向上を図るなど、楽しみながら学べる支援をしている。	遊びを通して表現力を引き出して情緒の安定を図り、人への信頼感が育つようにしている。 こどもに気づきを与え、自発的に行動できるよう促し、友達や職員とのかかわりの中で多くの場を経験し成長していけるよう支援している。	学校・家庭・事業所が一体となり方向性を同じくすることでこどもが安心して穏やかに活動できるよう連携を図っていく。
2	遊びを通して表現力を引き出し、情緒の安定を図り、信頼感が育つよう支援している。	友達へ興味を示し、玩具を共有して一緒に遊んだり、コミュニケーションが図れるよう支援している。	絵カードを用いて視覚的に情報を伝え、自ら行動に移せるよう支援していく。
3	個別活動と集団活動を組み合わせや異年齢児との交流取り入れた支援計画を策定している。	活動場面の目標を職員が共通理解して支援を行い、事前に打ち合わせを行ってからサービス提供ができるよう努めている。 系列の事業所との交流を積極的に行い、異年齢のこどもと関わる場を意識的に設定している。	こどもの成長に応じてアセスメントし、調整や計画を行っていき、実態に合った支援ができるよう活動への参加のしかたを検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との交流や保護者会の参加が低迷している。	コロナ禍以降、保護者との交流や行事への参加が減っている。 保護者会に出席する方がいつも同じメンバーになっている。	参加者が増えるよう協力を呼び掛けたり、参加してみたいくなるような企画について役員と相談していく。 以前実施していた「かがやき集会」を踏まえ、交流の機会を検討する。
2	業務の効率化や働き方改革の必要性を感じる。	報酬改定やガイドライン等の改定によりやるべきこと、事務的な業務が増え、こどもとかかわる時間や心の余裕が減ってきている。	さらなる業務のデジタル化や、放課後等デイサービスに特化した業務用ソフトの導入を検討している。
3			